

令和6年度 全国学力・学習状況調査の調査結果の分析（道明寺中）

1、〈生活習慣について〉

- (1) 朝食を毎日食べていますか。
 (2) 毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。
 (3) 毎日同じくらいの時刻に起きていますか。

(1) 肯定的な回答

	R4年度	R5年度	R6年度
本校	72.9	88.3	90.5
大阪府	76.3	88.7	89.1
全国	79.9	91.2	91.2

(2) 肯定的な回答

	R4年度	R5年度	R6年度
本校	76	79.6	86.2
大阪府	78.9	77.2	80.2
全国	79.9	78	80.7

(3) 肯定的な回答

	R4年度	R5年度	R6年度
本校	88.7	94.2	93.9
大阪府	91.4	90.4	92
全国	92.2	91.3	92.5

(1) について、毎日朝食を食べている生徒の割合は、令和4年度において本校は大阪府より3.4%低くなっていましたが、令和5年度で差はほぼなくなり、今年度は上回る結果となりました。昨年度までの2年間、本校の朝食喫食率の課題を教職員間で情報共有し、給食センターとの連携、栄養教諭（R5年度まで配置）の指導の下で食育を進めて改善を図った成果であると考えられます。また、何より各ご家庭において、朝食に対する理解を深めていただくことができ、子どもたちの喫食に対してご尽力いただいた結果と思っております。

また、(2)と(3)の就寝時間や起床時刻については、昨年度より数値は上昇し、全国と比較しても高い水準で規則正しい生活習慣が身につけていることがわかります。今後は、就寝と起床の時刻が適切であるかも含めて見極めていく必要があると考えております。

朝食をとらない場合や、定期的に十分な睡眠をとれていない場合、成長期の生徒たちにとって身体面はもちろん学習面（特に午前中の授業）にも悪影響を及ぼすことが考えられます。今後、本校でも引き続き生徒が自律して生活習慣を整えられるような取り組みを推進していきたいと考えていますが、各家庭でも引き続きご協力の程、よろしくお願いいたします。

2、〈ICT機器・スマホなどについて〉

- (4) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）
 (5) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯型のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしますか。
 (6) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）
 (7) 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。

(4) 全くしない

	R4年度	R5年度	R6年度
本校	29.3	53.3	48.3
大阪府	21.1	39.2	31.3
全国	18.6	34.3	28.4

(5) 4時間以上

	R4年度	R5年度	R6年度
本校	29.3		31
大阪府	22.9		22.8
全国	16.3		16.6

(6) 4時間以上

	R4年度	R5年度	R6年度
本校	24.8		33.6
大阪府	21.5		24.7
全国	15.6		18.2

(7) 肯定的な回答

	R4年度	R5年度	R6年度
本校	74.4		74.1
大阪府	70.5		72.6
全国	69.5		72.2

(4) について、学習への ICT 機器の使用を全くしないと回答した生徒は、約半数近くになっています。それに対し、(5)(6) のゲームや動画視聴、SNS などでの使用は、1 日 4 時間以上使用すると回答した生徒の割合は、全国や大阪府と比較してもかなり高い数値となっています。長時間のゲームや SNS の利用は、様々な能力の低下（記憶・学習能力、運動能力、視力など）や生活習慣への影響（就寝時間の遅れ、睡眠の質の低下など）、精神面への影響（意欲の低下、攻撃性の亢進など）があることが指摘されています。ICT 機器を娯楽のためだけの物ではなく、学習に活用する物としての意識を高めていく必要があります。

(7) については、全国や大阪府と比較しても高い数値にあるので、スマートフォンやコンピュータをご家庭での管理の下で使用できていることがわかります。ただし、上記にある本校の課題もふまえた上で、再度ご家庭での約束やルールが適切であるかを見直していただく必要があるかもしれません。今回の結果を踏まえて各ご家庭において、お子さまとお話しいただければ幸いです。

3、〈自己肯定感について〉

(9) 自分には、よいところがあると思いますか。

(11) 将来の夢や目標を持っていますか。

(12) 人が困っているときは、進んで助けていますか。

(13) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

(9) 肯定的な回答

	R4年度	R5年度	R6年度
本校	77.5	73	75
大阪府	75.2	77.7	81
全国	78.5	80	83.3

(11) 肯定的な回答

	R4年度	R5年度	R6年度
本校	65.4	61.4	56.1
大阪府	64.5	64.1	64
全国	67.3	66.3	66.3

(12) 肯定的な回答

	R4年度	R5年度	R6年度
本校	88.7	87.6	93.9
大阪府	86.6	86.4	88.9
全国	88.4	88.1	90.1

(13) 肯定的な回答

	R4年度	R5年度	R6年度
本校	97.8	93.5	96.5
大阪府	95.9	94.8	95.2
全国	96.4	95.5	95.7

(9) については、令和 5 年度より学校全体で「※ポジティブ行動支援」によって生徒の自己肯定感を高める取り組みを推進しておりますが、現段階で数値の上昇は見られません。学校として、引き続き研修や実践を行い、教職員のポジティブ行動支援のさらなる理解が必要であると考えています。

(11) についても、2 年連続して全国・大阪府の数値を下回る結果となっています。計画的なキャリア教育から、生徒の将来への見通しを持たせる授業や取り組みの推進が必須となります。

(12) については、道明寺校区の温かい雰囲気や毎年高い数値にある中で、今年度は特に高く、全国より 3.8% も高くなっています。思いやりがあり優しい道明寺校区の温かさを、これからも大切にしていきたいながら、(9) や (11) の数値の上昇にもつながっていくような教育活動を考えていきたいです。

(13) は、家庭での見守りや本校の取り組み等において、いじめを許さない気持ちが育っていることがわかります。高い数値ではあるものの、現状に満足せず、肯定的な回答がより高い割合となることをめざしていく必要があります。今後も、家庭と学校との連携を密にし、いじめの未然防止、早期発見、早期対応にも努めていきたいと考えます。

自己肯定感の高まりは、生徒の自律や主体的な活動を促進し、学力の向上にも繋がっていきます。学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを見守り、肯定的な関わりを継続していくことが大切です。

※ポジティブ行動支援

ポジティブ行動支援 (PBS) とは、当事者のポジティブな行動をポジティブに (罰的ではなく肯定的、教育的、予防的な方法で) 支援するための枠組みのことです。応用行動分析学に基づき、持続的な成果を生み出すための仕組みづくりをめざします。

4、〈学校生活について〉

(14) 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。

(16) 学校に行くのは楽しいと思いますか。

(18) 友達関係に満足していますか。

(14) 肯定的な回答

	R4年度	R5年度	R6年度
本校	71.4	68.6	75
大阪府	68.1	68.8	70
全国	66.6	66.4	67.5

(16) 肯定的な回答

	R4年度	R5年度	R6年度
本校	75.2	76.6	83.6
大阪府	80.7	79.7	82.5
全国	82.9	81.8	83.8

(18) 肯定的な回答

	R3年度	R5年度	R6年度
本校		91.2	90.5
大阪府		87.9	89.2
全国		88.7	90.1

(14) については、全国や大阪府を大きく上回る数値となっています。今後も親身になって生徒の心に寄り添いながら、残りの25%の生徒からも信頼を得られるように努力を続けていきます。

(16) については、過去2年間、全国や大阪府を下回っていた数値が、大阪府を上回り全国とほぼ並ぶ結果となりました。(18)からも、友達関係には90%以上の生徒が満足していると回答しており、教職員や友人とのつながりがしっかりと構築されていることがわかります。また、多くの時間を過ごす授業時間に対しても、楽しいと肯定的にとらえている生徒が増加していることが考えられます。

5、〈家庭学習について〉

(20) 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

(21) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

(22) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

(20) 肯定的な回答

	R4年度	R5年度	R6年度
本校			72.5
大阪府			79.5
全国			78.6

(21) 全くしない

	R4年度	R5年度	R6年度
本校	11.3	16.1	13.8
大阪府	8.5	9.8	10.6
全国	4.9	6	6.6

(22) 全くしない

	R4年度	R5年度	R6年度
本校	32.3	29.9	31
大阪府	18.8	21.5	21.2
全国	10.2	12.5	13.1

(20) の数値は、(21) (22) の家庭学習にも影響する数値です。近年の授業では、学習内容を教え込むだけでなく、自ら学び方を考えたり工夫したりする力を付けることも重要視されています。生徒が自立した学び手となるよう、授業改善が必要です。

(21) については、昨年度から少し改善は見られるものの、全国や大阪府よりも全くしない生徒は多くなっています。要因としては、生徒が意欲的に取り組めるような授業と関連付けた課題を提示できていないこと、部活動や習い事などで家庭での時間的な余裕がないこと、(5) (6) でもあったように、時間があってもゲームやスマホの長時間使用をしてしまうこと等が考えられます。(22) の休日の家庭学習の未定着も課題であることから、平日や週末に授業と関連のある宿題を出して家庭での学習機会を作ることも必要となります。

家庭学習を全くしない生徒が比較的多くいることは、本校の恒久的な課題です。学習は「させられるもの」ではなく「主体的にするもの」という意識の転換や、「学習を習慣化する」という行動の変容をもたらす学校としての取り組みを考える必要があります。

6、〈授業・協働学習について〉

- (27) 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか。
- (29) 1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。
- (30) 1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。
- (35) 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか。
- (37) 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。

(27) 週3回以上

	R4年度	R5年度	R6年度
本校	45.9	59.9	87.1
大阪府	43.1	52.2	56.9
全国	50.9	61.1	64.4

(29) 肯定的な回答

	R4年度	R5年度	R6年度
本校	71.4	68.6	60.3
大阪府	63	64.4	67.2
全国	63.3	62.1	64.8

(30) 肯定的な回答

	R4年度	R5年度	R6年度
本校	81.2	81.8	80.2
大阪府	76.1	77	80.3
全国	79.2	79.2	80.3

(35) 肯定的な回答

	R4年度	R5年度	R6年度
本校			82.7
大阪府			79.5
全国			78

(37) 肯定的な回答

	R4年度	R5年度	R6年度
本校			93.1
大阪府			91.1
全国			92.3

(27) については、ICT 機器の活用率が R5 年度より 27.2% も上昇し、全国や大阪府よりもかなり高い数値になっています。昨年度より、協働学習を授業の軸として取り組む上で ICT 端末の必要性が高まっていることが考えられます。

(29) (30) は、R5 年度より本校の数値が低くなっています。(29) については、国語の授業で論理的なアウトプットの仕方について学び、各教科で実践して発表する力を身につけることが必要です。

(30) については、全国や大阪府の数値にほぼ並んでいるものの、本校が現在めざしている生徒の姿を考えると、より高い基準を意識して生徒主体の学習スタイルを確立していきたいです。

(35) (37) については、どちらも本校の協働学習の取り組みにおいて数値の上昇が見込まれる質問内容です。いずれも全国や大阪府を上回る結果となっています。昨年度から取り組んでいる協働学習も、まだまだ課題も多いところではありますが、一定の成果が出ていると考えております。

今年度、本校は「つながりを生み出す協働学習の実践～学びの深化をめざして、協働と個別の往還～」をテーマに授業づくりを行っています。上の数値からもわかるように、他者との協働の中で課題を解決し探究していく学習に取り組むための基盤はこの2年で確立されてきています。これまでの協働学習をさらに発展させ、仲間や教師とのつながり・授業と家庭学習のつながり・学校での学びと実生活のつながり、など「つながりを生み出す」ことを意識した協働学習を計画・実践していきます。また、生徒が「深い思考」に主体的に到達するしかけを作り、学びの深まりがある授業を全教職員で実現したいと考えております。

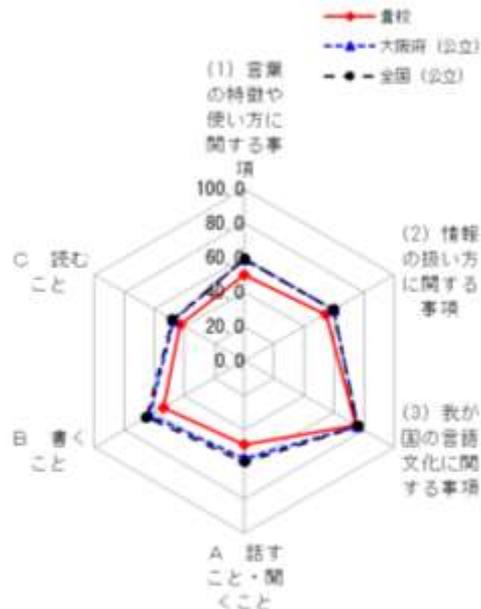
教職員も日々、新たな授業実践を模索し、授業力の向上をめざしています。今後も、保護者のみなさまのご理解とご支援のもと、家庭、地域とのつながりを大切に、本校の教育活動をより一層充実したものにしていきたいと考えています。

7、〈各教科について〉

①国語

対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
	本校	大阪府(公立)	全国(公立)
15	51	57	58.1

〈学習指導要領の内容の平均正答率の状況〉



【成果と課題】

- ・領域別に見ると、すべての分野において、平均正答率が大阪府、全国を下回りました。
- ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域では、「3三 漢字を書く」問いの正答率が全国より-5.6%でした。漢字などの知識や技能を反復し、習得する機会が必要です。
- ・問題形式別に見ると、「選択式」「短答式」と比べ、「記述式」の正答率が下がっています。また、「1四 自分の考えを書く」問題の無解答率が、全国平均 9.9%に対して本校が 24.6%であり、「3四 表現の効果を説明する」問題の無解答率が、全校平均 15.0%に対して本校が 33.3%と非常に高くなっています。単純に「書く力の不足」だけでなく、文章を正確に読んで理解する「読解力不足」や、記述問題に対してあきらめてしまう「苦手意識や粘り強さ」の問題が考えられます。
- ・記述問題と比較して、選択問題では全国平均と無解答率が近いものが多く、解答しようとする意欲が見えることが結果からわかりました。

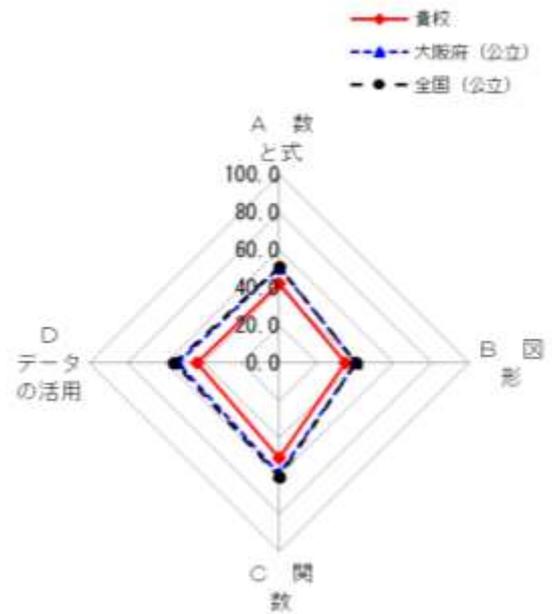
【今後の具体的な取り組みについて】

- ・現在まで取り組んできた言語文化に関する取り組み、例えば和語や漢語を調べてノートにまとめたり、四字熟語を覚えるだけでなく構成について考える、等は成果が出ているため、その取り組みは今後も継続し、基本的な力をさらに身につけられるように取り組んでいきます。
- ・基礎的な知識技能を定着させるため、授業の導入に反復的な学習や小テストを実施していきます。
- ・漢字や表現技法等に関して、覚えた知識を活用する力が課題として挙げられます。覚えた知識を活用したくなるようなしなかけを設定した授業づくりや家庭学習を検討し、実行していきます。
- ・記述問題に関して、無解答率が高いため、正答率も必然的に低くなっています。そのため、授業で物語や論説文を要約したり、「自分の考えを○字以上で書く」等のような課題を設定していきます。
- ・「書く」ことを日常化し、年間を見通して書く力を計画的に高めていけるよう、各学年のゴールとして創作や発表活動を設定します。各単元で身につけた力が、設定したゴール地点の活動で生かされることを見据えて、スモールステップで書く力を伸ばしていきます。
- ・「書く」ためには、様々な視点を取り入れ、思考を広げることが必要です。また、「書くこと」に対しての苦手意識が強い生徒も多いため、いきなり「書く」のではなく、ディスカッション(話すこと)を通して、思考を広げる取り組みを全学年で実施していきます。教科書で扱われている「ディスカッションのこつ」をポスター化して3学年で継続的に活用したり、「話し合いのための声量モデル」もポスター化して、学校として統一したディスカッションの指導を行っていきます。

②数学

対象問題数 (問)	平均正答率 (%)		
	本校	大阪府 (公立)	全国 (公立)
16	43	51	52.5

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況>



【成果と課題】

- ・領域別に見ると、すべての分野において、平均正答率が大阪府、全国を下回りました。
- ・「数と式」の領域では、答えが一つに絞れる問題についての正答率は比較的にはよい方でした。しかし、記述式になると、無解答率が多くなる傾向が見られました。
- ・「データの活用」の領域では、全国との平均正答率の差 (-11.8%) がとても大きく、問題文や表などから情報を読み取ることが苦手な生徒が多数いると思われます。その要因として、読解力の不足や語彙の意味を理解できていないこと等があると考えられます。
- ・問題形式別に見ると、平均正答率が全国と比べて、選択式問題が-9.6%下回り、短答式問題が-12.2%下回り、記述式問題が-5.6%下回っていました。
- ・短答式問題で正答率が最も低く、かつ、無解答率が最も高い問題は「連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかを見る」問題であることから、必要に応じて文字を用いて表すことを苦手とする生徒が多いと思われます。この苦手意識が、記述式問題のように言葉や式を用いて数学的に説明するような問題の正答率にも影響を与えていると考えられます。
- ・記述式問題に関しては、平均正答率の全国との差はあまり大きくありません。その一方で、無解答率が全国と比べてかなり高くなっています。多くの生徒は、答えを文章にして伝えることを苦手とし、また、最初からあきらめてしまう生徒が多いと考えられます。

【今後の具体的な取り組みについて】

- ・習熟度別授業を有効活用し、個に応じた指導の場面を作るなど、繰り返しの学習を心がけます。また、生徒が問題を解くことによって達成感を得られるためにも、難易度のステップアップ方式を取り入れ、より多くの問題を解く機会を設けていきます。
- ・記述式問題に関しては、教師がすぐに答えを教える授業ではなく、1年生では穴埋め方式の問題、2年生ではヒントを掲示した問題を設定するなど、少しずつ記述式問題に慣れさせていくことで、記述式問題に対する苦手意識を改善できるように取り組んでいきます。また、本校で取り組んでいる協働学習を通し、まずは生徒に考えさせ、その考えを班の仲間に伝えるなど言葉や文章で表現する経験を積ませていきます。
- ・常に生徒の学習意欲が高い状態を保つために、定期的に小テストを実施していきます。
- ・学校を通して、授業内での演習問題を多く設定し、アウトプットの時間を長くすることで学力の向上に努めます。

8、〈まとめ〉

◎本校の課題

- ・適切な時間に就寝、起床できるよう生活習慣を改善する。
- ・スマホを適切な時間、正しく利用する。
- ・様々な意欲につながる自己肯定感を高める。
- ・授業とつながりある家庭学習の習慣をつける。
- ・授業で語彙力、読解力、アウトプットする力を身につける。
- ・未定着な学習内容の学び直しをする。

◎これまでの成果と今後に向けて

本校は昨年度、研究テーマとして

「協働学習～聴く・伝える・わかる～」

を掲げて授業実践・授業研究を進めてきました。協働学習という学習スタイルが浸透し、定着してきている一方、数値として生徒の学力の向上には達していないと考えました。

そのため、令和6年度は

「つながりを生み出す協働学習の実践～学びの深化をめざして、協働と個別の往還～」

を研究テーマとし、形だけの協働学習で終わらず、目的意識をもった協働学習によって様々なつながりを生み出し、協働と個別をバランスよく組み合わせることで、確かな学力の向上をめざしていきたくと考えております。結果として数値に表れるまで時間はかかるものではありますが、生徒と共に教職員一同、粘り強く努力を続け成長していきたくです。今後も、本校の授業実践・授業研究にご理解をいただき、ご家庭と連携して学力向上に努めて参ります。引き続き、ご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

